

平成22年5月11日

第13回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！

会長賞には、八幡信用金庫（岐阜県）の
『郡上市における地域活性化』への取り組み

社団法人 全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：大前 孝治）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度「第13回信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

本賞は、地域に生まれ、地域とともに歩む信用金庫が、様々な分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。

今回は、昨年11月から本年1月までの募集期間に、151信用金庫・関係団体から434件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、地域活性化への取り組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。このため、選考委員会での選定作業は非常に難航しましたが、厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞7信用金庫と個人受賞2名の活動が決定いたしました。

信用金庫業界では、信用金庫の持つ「つなぐ力」をさらに進化させ、様々な主体との連携を一段と強化するなど、地域の持続的な発展を目指す取り組みを行っています。具体的には、業界の3か年計画「しんきん『つなぐ力』発揮2009」の推進、「地域活性化しんきん運動」の実施、「わがまち起業家！発掘プロジェクト」の立ち上げなど、地域との共存共栄を目指した活動を積極的に展開しております。

このような中で、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

なお、表彰式は、来る6月23日（水）開催の第126回全信協通常総会において執り行う予定です。

第13回「信用金庫社会貢献賞」選考結果

[会長賞]

八幡信用金庫（岐阜県） 「郡上市における地域活性化」への取り組み

[Face to Face賞]

世田谷信用金庫（東京都） 伝統行事「せたがやボロ市」と地域の絆

磐田信用金庫（静岡県） 移動店舗車による山間地での金融提供

[特別賞]

北海信用金庫（北海道） 認知症サポーター事業への取り組み

神戸信用金庫（兵庫県） 「安心・安全なまちづくり」への取り組み

[地域活性化しんきん運動・優秀賞]

花巻信用金庫（岩手県） 「花巻 夢・企業家塾」の取り組み

大阪市信用金庫（大阪府） 取引先企業の販路拡大に向けた取り組み

[個人賞]

城北信用金庫（東京都） 渡辺 照夫 氏
グランドソフトボールの発展・普及活動

新宮信用金庫（和歌山県） 瀬古 正 氏
伝統の佐野柱松復活

<参考> 第13回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	14	34
東北	13	34
関東	22	56
東京	13	33
北陸	8	25
東海	28	82
近畿	25	96
中国	8	16
四国	3	9
九州北部	7	19
南九州	7	27
団体	3	3
合計	151	434

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	238
スポーツ	43
社会福祉	37
芸術・文化	26
教育	32
環境	39
健康・医学	6
国際交流	3
史跡・伝統文化保存	6
災害支援	1
学術	3
合計	434

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小西、服部、柴田、磯、^{とがわ}兎川
(TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。

第13回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 「つなぐ力」で地域の連帯と活性化

選考委員 松岡紀雄氏（神奈川大学経営学部教授）

地域の活性化に向けた信用金庫への期待はますます高まっている。13回目を迎えた社会貢献賞には151の金庫・団体から434件の応募が寄せられたが、地域の人々の期待に応えようとする真剣な思いがひしひしと伝わってくる。

活動内容は多岐にわたり、地域の特性や金庫の伝統、理事長などの個性も大きく反映される。選考委員の評価も分かれ、コーディネーター役の私が涙を吞んで来年度以降の受賞を期待するという案件がいくつもあった。

会長賞に選ばれたのは八幡信用金庫（岐阜県）の「『郡上市における地域活性化』への取り組み」である。有力産業も少なく、公共事業の削減に伴う経済の低迷や若年層の流出による地域の活力低下が著しい。現状を打破し、地域の自立と持続的発展を図るためには、さまざまな地元の組織が連携を図り、民主導による地域活性化の推進が欠かせない。そのように考えた金庫では、商工会や観光連盟、建設業協会、森林組合や漁業協同組合、さらには郡上市にも呼びかけ、「地域活性化協議会」を立ち上げた。植樹事業や活性化基金の創設、活性化策の提案、異業種交流会など、その活動は多彩である。高く評価されるのは、協力し合うことのなかった地域の諸団体の間に連帯の基礎を築き、さらに民間と行政との「協働」を実現したことである。地元に着した信用金庫ならではの「つなぐ力」の発揮ということができる。

Face to Face 賞に選ばれたのは、磐田信用金庫の「移動店舗車による山間地での金融提供」である。山間部では住民の高齢化が進み金融機関の撤退が相次いでいる。効率を超えた地域尊重の姿勢は、これもまた信用金庫ならではのと言える。

「せたがやボロ市」は、432年前の戦国時代の楽市が起源というだけに、広くその名を知られている。こうした地域の重要な伝統行事運営の中核を担う世田谷信用金庫も、その地道で継続的な努力が高く評価された。

特別賞には北海信用金庫が選ばれた。厚生労働省では「認知症サポーター」を全国で100万人養成しようと取り組んでいるが、女子職員の提案から金庫を挙げて取り組むことになった。ほぼ全従業員をサポーターとして養成した企業は全国的にも例がなく、その姿勢が賞賛されている。

また、同賞には神戸信用金庫の「『安心・安全なまちづくり』への取り組み」も選ばれた。2年がかりで全役職員が市民救命士の講習を受けて資格を取得したという。民間救命講習団体にも認定され、地域団体等に対する講習会まで開催できるようになった。「こども110番」の店や「耳マーク」の全店設置など、地域の安全・安心への取り組みは多彩である。

地域活性化しんきん運動・優秀賞に選ばれた花巻信用金庫は、若手経営者の育成を通じて地域の活性化を図ろうとしている。「花巻 夢・企業家塾」と名づけた講座には、行政や商工団体等とのネットワークが生かされ、その受講生はすでに延べ3千名を超え、目に見えた成果を上げているという。

同じく大阪市信用金庫の「取引先企業の販路拡大に向けた取り組み」も選ばれた。取引

先から「販路拡大への支援」を要望する声が大きかったことを受けて、中小企業の売上に直結する独自の支援モデルを構築した。データベース情報の整備がきっかけとなって、次々と成功事例が生まれているというのは嬉しい。

個人賞の渡辺照夫氏（城北信用金庫）は、自ら視覚障がい者がプレーできるグラウンドソフトボールを楽しむばかりでなく、全日本の競技連盟を立ち上げ、役員としてもその普及に努めている。

瀬古正氏（新宮信用金庫）は、発起人となって佐野柱松実行委員会を立ち上げ、五穀豊穡を祈願する伝統の祭を34年ぶりに復活した。10年にわたって初代会長を務めた功績は大きい。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

八幡信用金庫（岐阜県）／「郡上市における地域活性化」への取り組み

八幡信用金庫は、郡上郡商工会連合会、郡上観光連盟、郡上建設業協会へ呼びかけ、平成15年12月に地域活性化協議会を立ち上げ、地域のさまざまな組織と連携した民間主導による地域活性化への取り組みを開始。翌年6月には郡上市を加えた郡上地域活性化協議会が発足し、現在、郡上森林組合、郡上漁業協同組合を加えた7団体が参画している。

植樹事業、地域活性化資金基金の創設、「郡上市の活性化への提言」の採択、異業種交流会による活動を行い、民間と行政が一体となった活動へ発展し、国の委託事業平成20年度「地方の元気再生事業」における各種の地域活性化策への取り組みへつながり、内閣府からは「山間地域における活性化の先導的なモデル」として評価された。

同金庫は本事業の遂行にあたり、地域団体・行政・キーパーソン・信用金庫ネットワークの4つの「つなぐ力」を発揮し、多くの成果を得た。

【Face to Face 賞】

世田谷信用金庫（東京都）／伝統行事「せたがやボロ市」と地域の絆

世田谷信用金庫は、432年の歴史を有する世田谷区の伝統的な市である「せたがやボロ市」の企画・運営に携わっている。

ボロ市は毎年12月と1月に開催され、約80万人が訪れる季節市で、東京都の無形民俗文化財に指定されている。同金庫は、昭和39年10月のボロ市推進委員会発足時に事務局を設立し、理事長が会長に就任、役職員を実行委員として派遣するなど、地元町会等と協力して無形民俗文化財の保存・継承に努めている。

また、金庫本店のホールに休憩室を設置し、お客様にお汁粉やみかんを振る舞うなどボロ市を支援するとともに、昭和49年よりチャリティーバザーを開催し毎年世田谷区社会福祉協議会や善意銀行等に寄付しており、寄贈先から多くの感謝状を授与されている。

【Face to Face 賞】

磐田信用金庫（静岡県）／移動店舗車による山間地での金融提供

磐田信用金庫は、平成16年4月より金融機関が撤退してしまった浜松市の山間部4カ所で暮らすお客様へ各種金融サービスを提供することを目的に、信用金庫業界初の「移動店舗車」を導入した。

業務内容は、普通預金の入出金や定期預金の受け払い、各種相談業務など通常の営業店とほぼ同等のサービスを提供している。

平成17年10月には、愛知県の山間部1カ所を加え、計5カ所を毎日1カ所ずつ1週

間巡回している。また、平成19年10月には2号車を導入し、浜松市内の1地区にて営業を開始、月・水の週2回巡回している。1号車は1日あたり20名、2号車は25名弱のお客様が利用している。

山間部から金融機関が撤退していくなか、金融サービスを受けない方へ同サービスを提供し続けるという信用金庫らしい地道な活動と評価されている。

【特別賞】

北海信用金庫（北海道）／認知症サポーター事業への取り組み

北海信用金庫は、厚生労働省が平成17年から実施する「認知症サポーター100万人キャラバン事業」に賛同し、高齢化社会に伴い増加が予想される認知症患者の支援活動を平成20年4月から展開している。役職員76人が認知症サポーターを養成する講師「キャラバン・メイト」の資格を取得し、同年5月から各店に資格取得者1～2人を配置。各店で認知症サポーター養成講座を開催し、全従業員の98%（476人）をサポーターとして養成。

同金庫のように企業独自でキャラバン・メイトの資格を取得し、ほぼ全従業員をサポーターとして養成したことは全国でも例がなく、今後のモデルケースとして拡大することが期待される。今後も積極的に推進し、サポーター養成のための講師派遣も含め、地域での要請があれば関係機関と連携し対応することとしている。

【特別賞】

神戸信用金庫（兵庫県）／「安心・安全なまちづくり」への取り組み

神戸信用金庫は、地域の安全・安心を確保することは、地域金融機関の使命であるとの認識のもと、神戸市消防局が取り組んでいる市民救命士の資格取得に着目し、平成16年から約2年間かけ全役職員が講習を修了した。

平成19年には、消防隊員の負担軽減を目的に市民救命士の講習を一定の条件を満たした企業・団体へ委任する「民間救急講習団体」として認定されたことにより、同年5月から地元中学校や商店街での派遣講習を実施し、20年1月には民間救急講習団体による市民救命士養成人数1万人達成の記念式典に参加、感謝状を授与された。

そのほか、「こども110番」の店の取り組み、「耳マーク」の全店での設置、音声案内機能付ATMの7店舗への設置など、地域の安全・安心の確保のためのさまざまな取り組みを展開している。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

花巻信用金庫（岩手県）／「花巻 夢・企業家塾」の取り組み

花巻信用金庫は、次世代を担う若手経営者の育成を目的に、平成16年9月に岩手県花巻地方振興局と連携して「花巻 夢・企業家塾」を立ち上げた。平成22年3月までに40回開講し、受講者数は延べ3,402名にのぼる。

同塾では、岩手県、花巻市、岩手大学、県立大学、商工団体、花巻市起業化支援センター、いわてネットワークシステム起業化研究会などの支援機関の協力によりネットワークを構築し、同ネットワークを利用した新商品の開発や事業の創出、販路の拡大がなされている。受講者の経営スキルも確実に上昇しており、地域活性化に向けた行動や相互支援による成果が出てきている。

また、同塾には塾生で組織された塾生会があり、現在は塾生会と共同で塾を運営・開催しており、地域の次世代経営者のニーズに合った内容の講座を今後も開催する方針としている。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

大阪市信用金庫（大阪府）／取引先企業の販路拡大に向けた取り組み

大阪市信用金庫は、取引先中小企業の事業支援を行うため、平成19年10月に「市信PLUS事業」を立ち上げた。

この取り組みは、同金庫の持つノウハウを駆使し、取引先の事業を幅広い分野で支援するものである。地域のがんばる中小企業や優れた技術の発掘、またさまざまな経営課題の解決など、多様な活動を通して地元企業の活性化を図っている。

詳細な「技術ハンドブック」を営業店の得意先担当者が携行し、優れた技術やノウハウを有した取引先の発掘に努めているほか、取引先から要望が多かった販路拡大支援に向け、大手企業の協力を得て新たな技術マッチングモデルを構築した。

具体的には、取引先の事業内容や特許などのデータベースを構築し、大手企業の技術課題に対応する確度の高いマッチングを進めており、地元中小企業から大きな期待が寄せられている。

【個人賞】

城北信用金庫（東京都） 渡辺 照夫 氏

グラウンドソフトボールの発展・普及活動

渡辺氏は、昭和62年に友人の紹介でグラウンドソフトボール・埼玉県チームに参加。選手・主将として活躍する一方、平成6年には「全日本グラウンドソフトボール連盟」を立ち上げ、役員に就任した。競技会運営やルール整備、審判員育成など連盟役員としての活動を通じて、同競技の普及・発展に尽力している。

グラウンドソフトボールとは、ソフトボールのルールを基本に視覚障がい者がプレーできるようにルールを制定した競技で、渡辺氏自身も視覚に障がいを持つ。

現在は埼玉県チームの監督も務め、チームを関東地区代表として全国障害者スポーツ大会に導くなど精力的に活動している。

【個人賞】

新宮信用金庫（和歌山県） 瀬古 正 氏

伝統の佐野柱松復活

瀬古氏は、平成5年に「佐野柱松（はしらまつ）実行委員会」の発起人となり、新宮市佐野地区の青年会と連携して同委員会を設立、会長に就任し、専業農家の減少や若者の流出などで途絶えていた「佐野柱松」を34年ぶりに開催した。

「柱松」とは、修験道を由来とし、お盆の時期に五穀豊饒を祈願し、高さ15mの稲穂に見立てた杉の木の頂上に設置した籠に、松で作った松明を投げ込む行事。

行事の運営は、同委員会会員のボランティアですべて行われ、人口3万人弱の新宮市に毎回1万人超の観客を集める夏の風物詩として定着している。

以 上

< 参 考 > **第 1 3 回「信用金庫社会貢献賞」について**

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、環境保全、各種ボランティアなどの地域社会活動および災害救援等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、特別賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々と一体となった取り組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価、感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 平成21年11月1日から22年1月31日まで

【選考委員】 ※所属等は平成22年4月現在、敬称略

佐藤	三千男	(株)読売新聞社東京本社 取締役制作局長
島田	京子	日本女子大学 非常勤講師
高橋	陽子	公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長
中村	利雄	日本商工会議所 専務理事
堀田	力	公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長
松岡	紀雄	神奈川大学経営学部 教授
大前	孝治	社団法人 全国信用金庫協会 会長
長谷川	圭志	社団法人 全国信用金庫協会 広報委員会 委員長
服部	順一	信金中央金庫 副理事長

【各賞の内容】

会 長 賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、**Face to Face** 賞または地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face 賞・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々と一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取り組みが期待され、奨励される活動に対して与えるものとする。

特 別 賞・・・活動期間は短期間ではあっても、近年、関心の高い環境・社会問題への取り組み、災害復旧支援など、関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・地域社会と中小企業の再生・活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

個 人 賞・・・個人あるいはグループの取り組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。